

令和2年8月20日 開会  
令和2年8月20日 閉会  
(臨時第9回)

# 大山町議会会議録

(副本)

大山町議会

大山町告示第 170 号

令和 2 年第 9 回大山町議会臨時会を次のとおり招集する

令和 2 年 8 月 17 日

大山町長 竹口 大紀

- 1 日 時 令和 2 年 8 月 20 日 (木) 午前 10 時
- 2 場 所 大山町役場議場
- 3 付議事件
  - 1) 議案第 106 号 工事請負契約の締結について (大山町立小中学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業)
  - 2) 議案第 107 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算 (第 8 号)
  - 3) 議案第 108 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算 (第 2 号)
  - 4) 議案第 105 号 令和 2 年度大山町水道事業会計補正予算 (第 2 号)

---

○開会日に応招した議員

森 本 貴 之	池 田 幸 恵
門 脇 輝 明	加 藤 紀 之
大 原 広 巳	大 杖 正 彦
米 本 隆 記	大 森 正 治
野 口 昌 作	近 藤 大 介
西 尾 寿 博	吉 原 美 智 恵
岡 田 聰	野 口 俊 明
西 山 富 三 郎	杉 谷 洋 一

---

○応招しなかった議員

なし

---

---

## 第 9 回 大 山 町 議 会 臨 時 会 議 録

令和 2 年 8 月 20 日（木曜日）

---

### 議 事 日 程

令和 2 年 8 月 20 日（木曜日） 午前 10 時 開会

1 開会（開議）宣告

2 議事日程の報告

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 議案第 106 号 工事請負契約の締結について

（大山町立小中学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業）

日程第 4 議案第 107 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算（第 8 号）

日程第 5 議案第 108 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算

（第 2 号）

日程第 6 議案第 105 号 令和 2 年度大山町水道事業会計補正予算（第 2 号）

---

### 本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

### 出席議員（15 名）

1 番 森 本 貴 之	2 番 池 田 幸 恵
3 番 門 脇 輝 明	4 番 加 藤 紀 之
5 番 大 原 広 巳	6 番 大 杖 正 彦
7 番 米 本 隆 記	8 番 大 森 正 治
9 番 野 口 昌 作	10 番 近 藤 大 介
11 番 西 尾 寿 博	12 番 吉 原 美 智 恵
13 番 岡 田 聰	14 番 野 口 俊 明
16 番 杉 谷 洋 一	

---

### 欠席議員（1 人）

15 番 西 山 富 三 郎

---

欠員(なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長 …………… 持 田 隆 昌                      書記 …………… 三 谷 輝 義

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 …………… 竹 口 大 紀                      教育長 …………… 鷺 見 寛 幸  
副町長 …………… 小 谷                      章                      教育次長…………… 前 田 繁 之  
総務課長 …………… 山 岡 浩 義                      幼児・学校教育課長 …… 田 中 真 弓  
財務課長…………… 金 田 茂 之                      企画課長 …………… 源 光                      靖  
観光課長 …………… 徳 永                      貴                      福祉介護課長 …………… 池 山 大 司  
建設課長 …………… 大 前                      満                      健康対策課長 …………… 末 次 四 郎  
農林水産課長 …………… 井 上                      龍                      水道課長 …………… 竹 村 秀 明

---

午前 10 時 00 分開会

- 議長(杉谷 洋一君) みなさんおはようございます。  
○局長(持田 隆昌君) 互礼を行います。ご起立ください。一同 礼。  
ご着席ください。
- 

開会・開議・議事日程

- 議長(杉谷 洋一君) ただいまの出席議員は、15 人です。  
西山議員からは欠席届けが出ています。定足数に達していますので、令和 2 年第 9 回  
大山町議会臨時会を開会します。これから 本日の会議を開きます。  
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。
- 

日程第 1 会議録署名議員の指名について

- 議長(杉谷 洋一君) 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。  
本臨時会の会議録署名議員は、会議規則第 125 条の規定によって、11 番 西尾 寿  
博議員、12 番 吉原 美智恵議員を指名します。
- 

日程第 2 会期の決定について

- 議長(杉谷 洋一君) 日程第 2、会期の決定についてを議題にします。  
お諮りします。本臨時会の会期は、本日、1 日限りにしたいと思います。  
ご異議ありませんか。

[ 「異議なし」と呼ぶ者あり ]

○議長(杉谷 洋一君) 異議なしと認めます。

したがって、会期は 本日、1 日限りに 決定しました。

---

### 日程第 3 議案第 106 号

○議長(杉谷 洋一君) 日程第 3、議案第 106 号 工事請負契約の締結について(大山町立小中学校情報通信ネットワーク環境施設整備事業)を議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀町長。

○町長(竹口 大紀君) おはようございます。

本日も、感染防止の対策がとられておりますので、マスク外して提案理由を説明させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

それでは議案第 106 号 工事請負契約の締結については、地方自治法第 96 条第 1 項第 5 号及び大山町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第 2 条の規定により、議会の議決を求めるものです。

この契約は、町内小中学校の情報通信ネットワーク環境の整備を行うもので、令和 2 年 8 月 6 日に 7 業者を指名し競争入札を実施したところ、税込金額 6,930 万円で、岡田電工株式会社 代表取締役 鳥橋祐二が落札し、令和 2 年 8 月 11 日付で仮契約を締結したところであります。

なお、工期は本契約締結の日の翌日から令和 3 年 3 月 19 日までとしております。

以上で提案理由の説明を終わります。

○議長(杉谷 洋一君) これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 議長、3 番。

○議長(杉谷 洋一君) 3 番 門脇議員。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 座ってでいいですか。

○議長(杉谷 洋一君) いや、ちょっと、普通通りに。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 資料をつけていただいているんですけど、全協のときに私がお願いしたのは、ちゃんとした契約情報等もつけていただきたい、ただしダブるようであれば省略していただいて結構ですというお話をさせていただいたんですけども、今回は内訳だけ、整備事業の内訳書だけについております。

契約条項の中には、違約した場合の金額であるとか、あるいは契約保証金を免除する額であるとか、いろいろ重要な内容が載っております。なぜ付けていただけなかったのかな、その辺のところを、御説明いただければと思います。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) 担当からお答えいたします。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 申しわけありません、全協のときの御質問のところ、よく把握しておりませんで、添付が漏れておりました。申し訳ありません。

○議員(3番 門脇 輝明君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 門脇議員。

○議員(3番 門脇 輝明君) それでは、今回は、仕方がないと思いますけれども、次回以降、必要なところは十分に添付した資料を出していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○副町長(小谷 章君) 議長、副町長。

○議長(杉谷 洋一君) 小谷副町長。

○副町長(小谷 章君) お答えいたします。

全協のときにですね、御指摘をいただいたところでもございます。きちんと資料を提出させていただくようにしていきます。

○議長(杉谷 洋一君) よろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) ほかに質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第 106 号を採決します。お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに 賛成の方は起立願います。

[ 賛成者起立 ]

○議長(杉谷 洋一君) 起立多数です。

したがって、議案第 106 号は、原案のとおり可決されました。

---

#### 日程第 4 議案第 107 号

○議長(杉谷 洋一君) 日程第 4、議案第 107 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算(第 8 号)を議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀町長。

○町長(竹口 大紀君) 議案第 107 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算(第 8 号)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響による追加対策などを実施するにあたり、既定の歳入歳出予算の総額に 9,315 万 2,000 円を追加し、歳入歳出予算の総額を 134 億 1,998 万 4,000 円とするものであります。

主な事業といたしましては、新型コロナウイルス感染症拡大により、影響を受けている集落営農組織の農作業省力化による事業継続を図る集落営農活動維持支援補助金の増額、新型コロナウイルス感染症の影響により負担が増えている、子育て世代の支援の一環として小中学校保護者に今年度の給食費を補助する学校給食費補助金の増額、また、6月豪雨により被災した農業用施設や公共土木施設の災害復旧事業などを実施いたします。

以上で説明を終わります。

○議長(杉谷 洋一君) これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議員(14番 野口 俊明君) 議長、14番。

○議長(杉谷 洋一君) 14番 野口俊明議員。

○議員(14番 野口 俊明君) 今回新規ということで大山町障害者福祉施設リモート環境整備事業補助金があるわけですが、この詳細説明をお願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、担当からお答えをいたします。

○福祉介護課長(池山 大司君) 議長、福祉介護課長。

○議長(杉谷 洋一君) 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長(池山 大司君) はい、野口議員さんの御質問にお答えいたします。

今回御提案させていただきました障害福祉施設に対するリモート環境整備補助制度でございますが、こちらにつきましては、障害サービスを提供しております事業所が町内に8カ所ございます。こちらの事業所のほうにニーズ調査を行いましたところ、実際のコロナの関係で、通所が制限されたりとかですね、それから事業所間での研修等に支障が生じているということがわかりまして、そちらをオンラインで対応するための機器の整備、それから通信環境の整備、そういったものに対しての、費用を一定額助成するという形で、事業所の要望にこたえていくものでございます。

補助率としましては3分の2、補助金の上限としましては、1事業所当たり20万円。財源としましては、地方創生臨時交付金のほうを全額充てる予定にしております。

で、こちらの制度のほうですが、高齢者施設のほうにもニーズ調査を行いました、こちらのほうは現在間に合っているということで今回、障害者施設のほうに絞って、制度のほうを創設するというようにしております。

なお、期間につきましては、ことしの4月1日に遡りまして、1年間の時限立法という形で対応させていただく予定です。以上です。

○議員(14番 野口 俊明君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 野口俊明議員。

○議員(14番 野口 俊明君) 基本的なことはわかりました。

いろいろな面で、いろいろな町のところに、いろいろな補助金等、支援等があるわけであり  
ますけど、この1事業所ということで、20万ということではありますが、8事業所のうち  
3事業所しか希望がなかったのか、ということではありますが、その他の事業所等につい  
ては、何ていうか買っているのか、できないのか、そこら辺の事情というのはどうい  
うことでしょうか。

○福祉介護課長(池山 大司君) 議長、福祉介護課長。

○議長(杉谷 洋一君) 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長(池山 大司君) ニーズ調査を行いました結果、3事業所からは、そうい  
った制度があるということであればぜひ使ってみたいということで回答を得ております。

残りの事業所につきましては、財政基盤が比較的、しっかりしてるというか、そうい  
うことで既に整備済みでありますとか、自費のほうで何とか対応するというところで環境  
のほうはつくれるということですので、この事業としましては、3事業所を一応対象に  
して、制度設計のほうさせていただいたところです。

○議長(杉谷 洋一君) はい、よろしいですか。

○議員(11番 西尾 寿博君) 議長、11番。

○議長(杉谷 洋一君) 11番 西尾議員。

○議員(11番 西尾 寿博君) 歳出の民生費です。こっちの概要説明書のほうにですね、  
感染防止費用536万円。マスクを備蓄するというふうになっておりますが、今まで、マ  
スクを備蓄してあったと思いますが1万幾らだったかね。あれはどのように使ったのか。

今後、どれぐらい備蓄するのか。まさか530何万円のもマスクばかり買うんかなと  
思ってみたり、説明をお願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、担当からお答えをいたします。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) お答えをいたします。

現在、マスクの備蓄が、1万枚でございます。それで、先だって、5月の臨時議会で、  
4万枚分を追加で予算をつけていただいたわけですがけれども、このたびの予算についま  
しては、さらに、15万枚分を追加で購入するというものでございます。それで、大人  
でいきますと合計20万枚ということになります。子供の分もございまして、約4万枚  
の備蓄ということとなります。

今後、現在第2波なり今後第3波ということもあるわけですがけれども、当初は、5月  
時点では、いわゆる医療機関なり、福祉介護施設なりへの配布ということも考えまして、  
御承認いただいたわけですがけれども、やはり必要に応じて、町民の方へのことも、配布



も視野に入れて備蓄を行っていきたいということもございまして、このたび追加で、予算計上させていただいたものでございます。以上です。

○議員(11番 西尾 寿博君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 西尾議員。

○議員(11番 西尾 寿博君) 今までの備蓄は使ったのかな。コロナがずーっとあるわけですが、備蓄を備蓄を終わらせてですね、ずっととりあえず備蓄しとけではなくて、使う時には使っていかなきゃじゃないの。古くなったりするしね、私、ゴムのを付けてますけども、ゴムはいずれ劣化してすぐ使えんようになりますしね。

そういう考えを持って、備蓄はそうだろうけど備蓄で、賞味期限がいつあるかわからんけども、やっぱり備蓄はある程度何枚で決めたら備蓄をするんだろうけども、古くなったものについては、何かの形でやっぱ使っていく、更新するということはしとるんじゃないかって、どっかに無料配布でもいいわけですし、そういったことを考えて、備蓄してほしいなと思うんですけどそんな考え方はどうですか。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 今まで備蓄したものににつきましては、約 5,000 枚ほど、医療機関なり、福祉介護施設に配布をしております。

それで現在備蓄しているものにつきましては約 10 年前に購入したものをずっと継続して、保管しておったものでございまして、いい状態で保管すれば、10 年ぐらいは使えるかなというふうに思っております。

それで今後、こういった感染症のことがいつ起きるかわかりません。また必要に応じては避難所とか、そういった場面での活用をと、他の場面でもですね、活用することもあるかと思っておりますので、必要な枚数として、このたび追加をお願いをさせていただいているところでございます。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) よろしいですか。他にありませんか。

○議員(2番 池田 幸恵君) 議長、2番。

○議長(杉谷 洋一君) 2番 池田議員。

○議員(2番 池田 幸恵君) ページ数でいきますと、8ページ、9ページになります。

概要説明書のほうでは、裏面の学校給食費の補助についてお伺いをします。

説明書のほうには、新型コロナウイルス感染症により地域経済が疲弊しているなか、子育て世代も支援の一環として小・中学校保護者に給食費を支援するとありますが、これは町内の小中学生に対するお子さんを持った家庭、全てが対象でしょうか。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) お答えします。

町内の小中学校に在籍する児童生徒の保護者が対象になります。

○議員(2番 池田 幸恵君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 池田議員。

○議員(2番 池田 幸恵君) 同じような状況下で、例えばですね小中学校に、今町内の小中学校に通われていない養護学校とかフリースクールなどに通われている保護者の方、子育て世代の方もいらっしゃいます。そういう方は対象にはならないということでしょうか。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 今回の学校給食費の補助におきましては、町内の小中学校で提供する給食費が対象になっておりますので、そのほかの学校に通学されるお子様につきましては、今回は対象としておりません。以上です。

○議員(2番 池田 幸恵君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 池田議員。

○議員(2番 池田 幸恵君) ですね、全協のときの説明がありましたが、給食費を集めているから、その方が対象だと伺ったんですけれども、やはり先ほど申しあげましたように、養護学校とか違う学校等々に通われてるお子さんの持った御家庭もございます。町にお金を支払ってないからではなくて、やはりそういうお子さんを持った家庭、一律幾らかと決めて、助成の対象にすることは予定されてますか。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えいたします。

全員協議会でも同じようなお話をさせていただいたとおりでありますけれども、対象外となる御家庭が確かにございます。そういったところ、どういった補助なり支援なりができるかというところは引き続き検討していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長(杉谷 洋一君) 他に。

○議員(3番 門脇 輝明君) 議長、3番。

○議長(杉谷 洋一君) はい、門脇議員。

○議員(3番 門脇 輝明君) 何点かお伺いしたいと思います。

今回ドライブレコーダー設置補助金について、追加の予算がついておりますけど現在の申請状況と今後の見込みについてお伺いしておきたいと思います。

続いて、先ほどもお話がありました大山町障害児福祉施設リモート環境整備事業補助金についてですけれども、どんな整備をされるのか、いまいちちょっとわかりませんので、具体的にこういった整備をされることについて補助をいたしますというふうな説明

をいただきたいと思います。

二つ、もう一つ、もう一つではないですけれども、感染防止事業について、先ほど、合計 20 万枚ですかね、備蓄をするというふうなお話があったんですけども、20 万枚という、根拠はどのように考えていらっしゃるのかなと思います。私も、私のところも、10 年前に備蓄をしておりました。今、1 人、1 日 1 枚、50 日分ということで、備蓄をしていたために今回も、マスク不足分については、追加で購入することがなくやることができました。

例えば、3 カ月程度でマスク不足が解消をするというふうに考えればですね、どの程度、その過程において使えるのかっていう試算ができると思います。これを、今は、町の予算で、全部手当をしていくんだというふうな発想だと思えるんですけども、例えばですね、費用の半分ぐらいを補助して、例えば社会福祉協議会に、町民向けに斡旋していただくというふうな、事業も考えられてもいいのじゃないかなと思います。

また、今はマスクだけでしたけれども、消毒液、防護服、帽子、手袋、靴カバーなどというものも、感染症対策には必要になってくると思います。これらの供給不足も、新聞等で報道されているところがございますけれども、今後、こういったものについて、予算措置をして備蓄をしていくっていう考えは、ありませんでしょうか。

また台風シーズンにも入ります。町内にコロナ感染症の方が発生している時点での避難場開設等も考えるようになりました。6 月定例会の答弁にあった、受付にはパーテーションをつけていくんだけど、それ以外のことについては、今考えていないというふうな答弁であったわけですけども、現在でも、そういうことなんでしょうか、お伺いしたいと思います。

それから、学校関係の新型コロナウイルス感染症対策事業について、説明書 7、8 ページですけども、この説明書の内容では、校長の判断で迅速かつ柔軟に対応することができるような、必要な予算を計上するというふうに書いてございます。幼児学校教育課の説明資料によりますと、内容は、需用費と備品購入費で具体例としては、消毒液や非接触型体温計等の保健衛生用品、換気用のサーキュレーター、教室保健室等の感染予防対策用のパーテーション等挙げられておりますけれども、現時点でこれらの物品の調達を迅速かつ柔軟に対応する必要性っていうのは、どういうふうに考えればいいのか。教えていただきたいと思います。

また、その中で中学校の備品購入費が、差し引き 82 万円の減額となっておりますけれども、その理由をお答えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、それぞれ担当からお答えをいたします。

○企画課長(源光 靖君) 議長、企画課長。

○議長(杉谷 洋一君) 源光企画課長。

○企画課長(源光 靖君) 私のほうからドライブレコーダーの御質問についてお答えをいたします。

現在ドライブレコーダーの補助申請ですが、30件受け付けをいたしております。

補助申請額の合計は29万7,000円の状況でございます。

で、今後の見込みでございますが、既に数件、今後の見通しについてのお問い合わせいただいております。今後、今年度継続的に申請はいただけるものと考えております。以上です。

○福祉介護課長(池山 大司君) 議長、福祉介護課長。

○議長(杉谷 洋一君) 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長(池山 大司君) 障害福祉施設に係るリモート関係の補助金のことについて御質問いただきました。

こちらの具体的なイメージなんですけど、現在、経費削減等も事業所とは考えられておられて、未だにADSLとかですね、古い通信環境を使っているところが多数あります。で、今回の公開のオンラインで動画を使ったような大容量のデータ通信を行うためには、光回線の引き込み等が必要になりまして、大山町で言いますと中海テレビ放送さんとの契約、引き込み工事、こういったものが必要になります。この工事費が大体、恐らく平均の20万ぐらい係るんじゃないかということで、あとその他、動画配信受認等に耐えられるようなパソコンでありますとか、そういった機器等の調達等を含めますと大体30万ぐらいになるのではないかということで見積もりをとりまして、その3分の2を補助させていただくということと設計させていただいております。以上です。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 衛生費に係る感染防止事業につきまして、お答えさせていただきます。

まず最初に20万枚でございますけども、約5万枚につきましては、考え方としましては、5万枚につきましては、5月の臨時会でも御承認いただきましたですけれども、医療機関であったり、福祉介護施設、その他約15万枚につきましては、例えば、町民の方に、これは例えばでございますけども、1人10枚ずつ配布したら、約15万枚なりますので、そういったようなイメージでございます。

ですが、実際、その場面、その場面での対応ということがあるかと思っておりますけれども、考え方といいますかイメージとしてはそういうふうに思っております。それで、先ほど、例えば社会福祉協議会を通じての補助とかということもございましたですけれども、備蓄する理由でございますが、それは、市場にマスクの流通なり、購入したくても購入できないという事態は実際起こっております。そういった非常事態に備えて、前もって、

備蓄をする、備えておくというものでございますので、やはり前もって購入をして、備えることが必要でなかろうかなというふうに思っております。

それから靴カバー等でございますけれども、現在のところそこまでは考えていないところでございます。以上です。

○総務課長(山岡 浩義君) 議長、総務課長。

○議長(杉谷 洋一君) 山岡総務課長。

○総務課長(山岡 浩義君) 避難所におけますコロナの対応ということでございますけれども、避難所の備蓄用品ということは、まず一つとして、県との、あるいは全町、県内の市町村との連携備蓄という制度がございます。その中に、コロナ対応ということで、若干ですけれども、種目をふやすということが、今までもしておりますし、今後また変更があるということで今後対応させていただきたいというふうに考えております。

またそれにならない、該当しないものについては、今後補正予算等で単町での整備ということを考えております。以上です。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 学校の感染症対策に係る物品ですけれども、各学校の御希望により、物品等の購入予算のほう確保しております。

必要なタイミング等によりまして、スムーズに衛生用品等の購入がしていただけるようにしております。

それから中学校費の備品購入費の減額につきましては、次亜塩素酸水の生成装置を、当初買うように予定をしておりましたけれども、アルコールへの消毒に切りかえるもので減額としております。以上です。

○議員(3番 門脇 輝明君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 門脇議員。

○議員(3番 門脇 輝明君) はい、先ほども、西尾議員のほうから話があったんですけども、マスクの備蓄についてですね、適宜更新していく必要があると。要するに、町で町民の分を全部備蓄してしまえば、それはいちいちまた町のほうから配らないと更新ができないんですよね。そう考えれば、例えば毎年のように、インフルエンザは、流行ります。また今後は、このコロナも流行ってくるかもしれません。そういったときに、逐次使用しながら、使った分を買い足していただくという、家庭での備蓄っていうことを考えるべきではないかなと思いますけれどもいかがでしょうか。

そして防護服等、靴カバーまでのことは現在考えていないということですが、医療機関がいざコロナが流行ってきたっていうことになると、非常に厳しい状況になると考えられます。そういったことであれば、ちゃんとそれに対応するような、感染防止資材というものは、これこそ、町で備蓄しておくべきではないかと思っておりますけれども、

いかがでしょうか。

そして、避難所については、連携備蓄のほうで対応するんだということでございますので、しっかり機能するように、準備を整えていただきたいと思います。

それから、学校の関係の感染症対策事業ですけれども、これは、今、聞いておりますと、予算はつけたけれども、それを使うかどうかは、校長が随時判断をして使っていくんだというふうに言われたように私は受け取ったんですけども、それでいいでしょうか。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 備蓄マスクの更新の件でございますけれども、また議員仰いますように、ある程度の、ため込んだままで、そのまま例えば廃棄とかそんなことになっては、あまり有効ではないというふうに思いますので、議員の仰られたことを踏まえてちょっと検討させてもらえたらというふうに思います。

あと防護服なり靴カバーということもありましたですけれども、防護服につきましては、先ほど申し上げませんでしたですけれども、現在は約 1500 着、1500 ほど備蓄をしております。これも必要に応じて、現在でも医療機関に配付しているところでございますので、継続して備えるようにしたいというふうに思います。以上です。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 学校の衛生物品につきましては各学校の要望によりまして、物品等を購入するようにしております、積算のほうもしております。

ただ、購入時期につきましては、各学校の必要なタイミングで購入していただければというふうに考えております。以上です。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) はい、門脇議員。

○議員(3 番 門脇 輝明君) はい、防護服等の考え方ですけれども、これは、1500 式って言いますか、用意してあるんだということですけども、これは、どのような期間、何日分、というふうな、積算ができておりますでしょうか。

それから、先ほど・・・(「予算と関係がない、防護服が出っ放しだが」と発言するものあり)わかりました。はい。

それから学校の感染症対策のほうで、予算はつけたけれども購入時期については、学校の任意の裁量なんだという話でしたけれども、それであれば買わないという選択もあるわけですね。それだけ確認して終わりたいと思います。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) はい、各学校の要望によって、積算はしております

けれども、例えば物品を変更するとかということは、可能性としてはあるかと思えます。

また必要なくなった場合も、使用をしないということがあるかと思えます。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) ほかにありませんか。

○議員(4番 加藤 紀之君) 議長、4番。

○議長(杉谷 洋一君) はい。4番 加藤議員。

○議員(4番 加藤 紀之君) 学校給食費補助金について伺いたいと思います。

3,150万という大きな予算を使って、給食費を無償化するというもののようにけれども、この事業を思いつかれた根拠というか、理由、それからですね、この事業によってどのような効果が生まれるのか、それを説明をお願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、担当からお答えをいたします。

○議長(杉谷 洋一君) 総務課か。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、私からお答えします。

まず、この補助事業の取り組みの経過ですけれども、初期の段階で、議会ともいろいろとこの場で意見交換をさせていただきました。

その際に、ほかの自治体では、子育て世代に対して、別個で補助等をとっておるけれども、大山町としてはないのかというような御意見もございました。で、特に、これまで、具体的に子育て世代に対してへの補助というところが無かったわけですけれども、このたび、なるべく間接経費をかけずに、早く広く、何か補助ができないかというところで、給食費の補助、公共サービスの、手出し部分を、なくしてしまうということで申請ができないかというところで検討したところでございます。

で、効果としましては、経済的な支援でありますので、各世帯において、それだけ、経済的な負担軽減になるわけですけれども、それによりまして、少しでも子供と触れ合う時間を、保護者の方につくっていただければよいと考えております。

コロナの影響によりまして、臨時休業が突然あったりとか、あるいは保育園の登園自粛があったりとか、さまざまな年齢の子供がいますけれども、おおむね子育て世代にとって、非常に負担が増えているというところがございます。

もう少し経済的に余裕があれば、仕事を少しでも休んで1日でも多く休んで、あるいは1時間でも多く休んで、子供と触れ合いたいけれども、なかなか、家計の状況ではできないというような声も聞いておりますので、そういったところの支援になって、最終的に、子供あるいは家庭にとって、負担がストレスがかかっているところが解消、少しでもできればというふうに考えております。

○議員(4番 加藤 紀之君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 加藤議員。

○議員(4番 加藤 紀之君) 全ての子供を持つ世帯が、そのような状況にあるのか。

というと、非常に疑問で仕方がないと思います。福祉介護課長は、いい答弁をされたと思います。事業所に1件1件確認をして、こういう要望があるということで事業化をされたと。で、しかもその、件数までしっかりと把握をされて、金額もしっかりと計上された。この給食費の補助金については、あくまで、何か、何世帯かの話を聞いて、そんなんじゃないだろうかということで、地方創生の臨時交付金を使って、全世帯、子供を持つ全世帯に、ある意味ばらまきの補助するものだというふうに思います、私自身は。それよりももっと困ってる人がたくさんまだあるんじゃないですか。ないんですか。そこについてお答え願います。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい、お答えをいたします。

困ってる方というのは、町内にいろいろな状況がありますので、これでなくなるということではないと思います。

ただ今まで、いろいろな業者の支援だったりとか、さまざまな状況がある方に、それぞれさまざまな補助制度等をしてきたわけですが、子育て世代に対して、何か支援があったかといえば、まだない状態でありますので、こういった支援をすることで、多少なりとも困り感というのは解消に向かうのではないかというふうに思いますが、これによって全てが解決するというふうには考えておりませんので、先ほど池田議員から御指摘をいただいたように、まだ行き届かないところがあれば、引き続き検討しながら、支援策を進めていきたいというふうに思っております。

○議員(4番 加藤 紀之君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 加藤議員。

○議員(4番 加藤 紀之君) はい、全ての世代で困ってる状況というのはあるでしょうし、職種にしてもそうでしょう。そういった部分をしっかりと調査をして予算化をしていく、事業化をしていくのであれば、私は賛成いたしますが、この件に関しては、ほかにもたくさん困ってる声を議員たちも聞いているはずですし、職員たちも聞いていると思います。

そういった者が後回しになって、先に困ってるんだかどうか分からないような世代に集中的に、しかも、臨時交付金の総額でいったら3億円ぐらいですかね、その1割に当たる金額を充てていく、本当に必要なのって私は思います。

それに対して、もうちょっと、なんていうのかな丁寧なというか、皆さんに理解できるような説明をお願いします。



○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) さまざまな御意見なり声なりを聞いて、4月以降ですね、臨時会も含めて、何度も補正予算で支援策を提案させていただいております。

これは順番で先に制度が整ったり、あるいは予算の計算等ができたものから計上させていただいております。

このたびの国が2次補正による地方創生臨時交付金の第2弾に関しては、9月の定例議会でも、補正予算で、コロナ関係の対応策を提案させていただく予定です。

ただ、今段階、8月の下旬段階でまとまってないものがありまして、困っている順番に提案をさせていただいているということではなくて、こちらの準備ができたものから、次々提案をさせていただいているというところでもありますので、まだまだ9月の定例会でも、補正予算で支援策を提案をさせていただきたいというふうに思っております。

子育て世代の困り感として調査をしているのかというところでもありますけれども、これは子育て世代に、コロナと関係なくですね、国のほうも県のほうも、こういったところで、課題があるのかというところを調査しております。

例えば希望する子どもの数と実際の子供の数が違うのはなぜかといったというときにもですね、やはり1番は経済的理由というところが常にトップに出てくる場所がありますので、何等か経済的な支援というのは子育て世代にとっては有効であろうというふうに考えております。

それをこのたびのコロナの子供が、家に居る時間が長くなるですとか、親の子育てに対するストレスの負担感、これが増しているというのは、これ全国調査で出ておりますけれども、こういったところを解消するために、支援をさせていただくものですので、御理解いただければというふうに思います。

○議長(杉谷 洋一君) 他に。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 議長、12番。

○議長(杉谷 洋一君) 12番 吉原議員。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 同じく学校給食費補助金についてですけれども、今加藤議員もありましたけれども、このコロナも3月から始まりました。で、今結局日本社会でですね、今見えてきたのは安定している人と不安定な人がいよいよはっきりしてきたんではないかと思えます。

結局、非正規社員とか、また、自営業、自由業、そのあたりの方も経済的に波がある方が特に収入が大きく減っています。

これはやはり大山町民も免れない実態であると思えます。ですので、今町長はふれあいとかなんとか言われましたけれども、子育て支援も言われました。子育て支援というのは町長、在職以来ずっとやっておられることでして、子供と触れ合う前にですね、そ

の今休んでる方が、休業補償をもらえてるか。そういうところもあると思うんですね。会社によっては面倒くさいからということで、休業補償の手続をされない会社もあると聞いています。

ですので、そういうところのピンポイントの、本当に困っている人の、今、そういうところの施策が必要ではないかと思います。ずっとこれからこれからと言っておられましたけれども、もう3月から5カ月過ぎます。じゃあ、その今経済的に波のある不安定な方たちが、大山町の実態としてどのようにあるのか、調査をされているでしょうか。

例えば、5,777世帯、いや国でさえ、国は10万円、また児童手当1万円、それは国は調査ができないからです。きめ細かい調査ができるのが大山町だと思うんですけども、いかがでしょうか。この3,000万円で、何か他の施策ができなかったでしょうか。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えします。

ピンポイントで困ってる方を調べるというところですけども、例えば国のほうでも議論がありました。所得でいくらで制限して、どうするかというふうにすると、やっぱり、実態と合わないところがあると思います。町としましても、所得で、基準をつくって出すということもできないことはないと思いますが、吉原議員御指摘の通り、新型コロナウイルスの影響が出ているのはことしの3月以降でありまして、今の把握している所得をベースにしますと、これは2019年1月から12月までの所得ということになりますので、実際にコロナの影響を受けている人に、支援がいかないということになります。そういった議論もありまして、国のほうでも一律給付というような大きな方向転換をされたところであります。

きめ細かにするために、一つ一つ調査をしてやっていくというのも基本でありますけれども、できるところとできないところというのが当然あるかと思います。町内の事業者への支援というところにおいては、商工会のほうにも御協力をいただきましたけれども、調査をして、業種によって宿泊業、飲食業、あるいは小規模な建築業であったり、そういったところが、影響を受けているというような調査がありましたので、そこを重点的に支援をしていくということは可能でした。

これをですね、町民全体1万6,000人にするということになると、非常に分析調査、こういったところでも非常にコスト、時間がかかりますので、やはり基本は、以前にも議会のほうから御意見としてありましたが、広く支援をしていきながら、それからこぼれ落ちてどうしても困るというようなところがあればまた別の施策を展開していく、この繰り返しであろうというふうに思っております。

したがってこれを行って終わりということではなくてですね、引き続き声を聞きながら、あるいは調査できるものは調査をしながら、実態に合わせた細かい支援策を提案し

ていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 吉原議員。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 私も具体的な政策が提言できませんけれどもですね。ただ、町長の言われることがわかります。所得制限については、それは規則ありますけれども、だからこそ逆に、実態調査費用として提案されて、実際に今、大山町は実態調査って、前、国勢調査なんかも、1件1件回るわけですから、しようと思えばできないことはないと思いますし、どこまでだっていうのはありますが申告制で、きちんと、今皆さん本当に困っておられる方のできる限りの申告制でわかる、みえるところを支援するとか、何かできるところから少しやっていかれないと、なぜこのことを言いますと、やっぱり結局、給食費補助にしても子育て家庭だけが困っているわけでもないし、その辺のやはり町民さんとしての、不公平感が出るんじゃないかなと心配しているわけです。

それについてどうでしょうか。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えします。

例えば、特別定額給付金で、1人当たり10万円を一律給付をしたり、町で言えば、7月下旬から8月上旬にかけて町内で使えるお買い物券、お食事券リフォーム券というところで1人当たり1万円を一律で配布をさせていただいたり、かなり広範囲全員に対しての広い施策というのはしてきておりますし、それ以外の、例えば宿泊業、飲食業、あるいは、農林水産業であったり、さまざまな業種ごとの補助制度というものも行ってきております。

で、今回では子育て世代に対しての一律の支援ということになるろうかと思いますが、確かに子育て世代以外は恩恵がないということになります。それはほかの農林水産業の補助事業にしましても、宿泊業、飲食業の補助事業にしましても、対象とならない方というのは一定数出てきますので、引き続きそういったところから、さらに一律で給付をしてるけどそれ以上に困っているというところが出てくれば、また新たな支援策で対応していくことになるろうかというふうに思います。

現状としましては、さまざまな支援策を行ってきておりますけれども、これで十分だというふうには考えておりません。新型コロナウイルス感染症の影響も、全くなくなっているわけではございませんし、昨日も、隣の米子市でまた新たに感染者が出たということで、こういった影響もずっとしばらく続いていくんだらうなというふうに考えております。

非常に長い闘いになるろうかと思っておりますので、これをして終わりということではなくて、これをすれば完全な支援策だということではなくてですね、その都度状況をしっかり把

握しながら、広く支援策を行ってそこからはみ出した方というものを支援していく、これの繰り返しをしていきたいというふうに考えております。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 吉原議員。

○議員(12番 吉原 美智恵君) 私が今実態調査のことを申し上げましたけれども、ありがとう大山みんなで応援券発行事業なども、各家庭に郵便局からちゃんと届きました。ということは、そういうアンケート用紙を配って、また回収するというのもできないことはないと思います。実態がわからないのが1番どうなのかなと思うわけです。まあ、極端なんだと言いましたけれども、せめて、ある程度こう、大山町の実態が、今、非正規雇用の方とか、フリーランスの方とか、そういう波にのまれまそうなっている方ということを、やはりどこかで見つけていって、支援する。じゃないと町の任務というか、そういうことが国や国からの補助金をずっと、皆さんに差し上げる、それはできます。ということですけど、最後に質問いたします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) 改めてのアンケート調査というところですけども、必要があれば行っていききたいと思っておりますが、困っている世帯というところで、その困っている人が、何かというところで、例えば経済的に困っているというところであれば、常日ごろから、町の福祉部門であったり、あるいは県の関係する機関であったりと連携しながら把握に努めて支援をしているところでもありますし、それぞれの子育て世代で言えば要保護、準用保護家庭というの、毎年のように関わりがっております。

こういったところで、どのようなニーズがあるのかというところは、担当は当然、把握をしている範囲でありますし、それ以外の世帯にも広めて、広範囲でするところで、必要性があれば検討していきたいというふうに思っておりますが、何が一番的確かというところは非常に難しいところでもありますので、しっかり検討はしていきたいというふうに思います。

○議長(杉谷 洋一君) 他にありませんか。

○議員(10番 近藤 大介君) 議長、10番。

○議長(杉谷 洋一君) 10番、近藤議員。

○議員(10番 近藤 大介君) 何点かお尋ねしたいと思います。

まず全般的なことですけども、今回の補正予算コロナ対策のものが多いわけですけども、国のほうからコロナ対策交付金、二次補正の配分がっております。そういったものが財源になるかと思うんですけども、改めて二次補正の大山町の配分額とですね、それから今回の補正までで、積み上がって結局、交付金を活用した総額が幾らになるのか。で、残りは幾らなのか。町長のほうでね、9月定例でまた提案するとおっしゃいま

したけれども、残った、配分額を活用してですね、具体的にどういったことを、今後コロナ対策として検討しておられるのか。

配分二次補正の配分額もたしか9月末までに事業計画出さなきゃいかんかったんじゃないかなと思います。もうそんなにゆっくり考えてる時間ないと思うんですが、現状の状況を御説明いただきたいと思います。

それから、個々の事業についてですが、先ほどから話題になっている給食費の全額補助ということで、町長、竹口町長が就任されたころから、こういったことを構想しておられて半額補助は実現してあるわけですけども、個人的にはほんとうに全額補助の必要性があるのかなというのはほかの議員さんと同様に私もちょっと考えているところです。

まず、子育て世代の今の経済的な困り感というのをちょっと把握したいと思うので、給食費については学校長がそれぞれ集金を責任持って担当しておられると思います。直近の二、三カ月、今年度なり、直近に二、三カ月ですね、各校での給食費の滞納状況について、教育委員会のほうで把握がしておられる部分があれば御説明いただきたいと思います。

それから、学校長、学校のほうで、給食費を集金されるということで事務の負担があっていると思うんですが、例えば学校のほうからですね、給食費の集金する手間が大変だというような声が、これまでに上がっているのかどうかといったようなこともちょっと御説明いただきたいと思います。

それからはもう、学校給食費に、の全額補助ということでですね、無償化ということがですね、このコロナの関係で、今年度だけの特別なことなのか、それとも来年度以降も、無償化、全額無償化という可能性があるのか、この辺についても、説明もお願いしたいと思います。

それと、もう一件、教育関係の事業ですが、教育活動費補助金ですか、修学旅行の、各校で実施される修学旅行で、キャンセル等があった場合の、突然のキャンセルがあった場合のキャンセル費用について、町が負担するというようなことの予算のようですけども、現在までの各町内各校のですね、修学旅行の実施の状況であったり、対応状況について簡単に御説明いただきたいということと、それから、修学旅行に限らずほんとうにコロナ以降、ことしの春以降、各学校では、例えば運動会だったりとか文化祭、中止あるいは縮小とかいろんな行事が通常どおりできないという形で、児童生徒のストレスもかなりたまっているんじゃないかなあというふうに思います。

そのあたりの状況について少し簡単に御説明いただきたいと思います。とりあえず以上お願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) それぞれ担当からお答えしますが、来年度以降の見通しという

ところだけはお答えさせていただきたいと思います。

給食費の補助に関しましては、コロナ対応ということで今年度限りの対応です。これは教育委員会のほうでもそのようにお認めをいただいているところであります。

来年度以降に関しましては、さまざま議論があるわけですがけれども、基本的には、昨年 10 月消費税が増税されて、その増税分の財源は国が社会保障に使うと、子育て支援等に使うということで、幼児教育等の無償化に、国は踏み切ったわけですがけれども、実際に、市町村で先行して保育料の無償化をやっておるところに於いては、保護者に対して恩恵が全然ないと、自治体の財源だけが、財政状況だけが改善をしてしまったというような批判も全国であるわけですので、こういった、消費税の増税部分の財源等は、大山町としましては新たな子育て支援策に使われてない部分がありますので、こういった財源を活用しながら、来年度以降は給食費の無償化を時限的な措置ではなくて恒久的な措置でできないかというところは、検討していきたいというふうに思っています。

○財務課長(金田 茂之君) 議長、財務課長。

○議長(杉谷 洋一君) 金田財務課長。

○財務課長(金田 茂之君) コロナ臨時交付金のお答えをさせていただきます。

既に情報提供させていただいておりますけれども、1 次につきましては 1 億 1,359 万 4,000 円。2 次につきましては、3 億 6,424 万。合計で 4 億 7,783 万 4,000 円となっております。

コロナの交付金を活用しました補正予算の関係ですがけれども、本議会に提案しております 8 号補正までできますと、2 億 5,452 万 4,000 円となっております。残額につきましては、2 億 2,331 万ということになっております。

で、今月の中旬くらいに、国のほうに、1 次、2 次合わせました実施計画を提出するわけですがけれども、事業費ベースでいきますと、今現在、想定しておりますのは 5 億 9,000 万くらいと、の事業費で提出する予定としております。あぶれましたところは、財調基金を、充てるという格好になるかと思えます。以上です。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) 議長、幼児学校教育課長。

○議長(杉谷 洋一君) 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長(田中 真弓君) はい。給食費の滞納状況ですがけれども、現在滞納のある家庭というところはございません。

しかし遅れている、支払いが遅れているという家庭は数件あるように聞いております。学校の事務の集金の負担というところですが、特に声は上がってきてはおりませんけれども、遅れがちな家庭への支援というか、通知等の事務は、負担になっているかなというふうに思っております。以上です。

○教育次長(前田 繁之君) 議長、教育次長。

○議長(杉谷 洋一君) 前田教育次長。

○教育次長(前田 繁之君) 修学旅行の対応状況ですけれども、小学校で言いますと、中山小、大山小、大山西小学校は、既に県内での1泊2日の修学旅行に切りかえております。時期については、10月下旬から11月下旬にかけての、1泊2日でございます。名和小学校については、12月に広島に行く計画でおりますけれども、これについてはまだ結論が出ていません。

ただ、これについても状況によっては県内への修学旅行に切りかえは模索しているところです。中学校については、大山中学校が、蒜山周辺の体験活動等の計画、日帰りです。中山中学校が県の東部、鳥取市、それから岩美の海岸のあたり、あのあたりの体験活動の計画をしております。この二つの中学校については日帰りですので、感染状況によっては、場所を急遽変更することも可能かなど、学校長が申しておりました。名和中学校については、やはりまだ検討中だそうで、学校長も非常に悩んでいたというところでございます。

子供たちの状況ですけれども、以前はコロナの関係で、子供たちの、例えば欠席状況だとか、そういった面で影響は、4月5月はそれほど見られなかったんですけれども、私が気になるのは、やっぱり長い1学期で、行事もほとんどない中で、やはり徐々に欠席がふえているケースあって、その対策を今、各学校に指示をしているところです。

きのうから2学期がスタートして、小学校も来週2学期がスタートしますけれども、スタートする前に、子供たちへの声かけだとか、家庭状況の把握だとか、そういったところを今、学校のほうは取り組んでいるところです。以上です。

(「答弁の中で、9月定例会で結果が出てくるようなコロナ対策もなんか検討しておられる事業、なんか説明いただけるものがないでしょうか。」と発言する者あり)

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい。次の全員協議会で御説明させていただく予定にしております。

○議員(10番 近藤 大介君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 近藤議員。

○議員(10番 近藤 大介君) そうすると、まあ学校の修学旅行の関係からまずいきたいと思います。

中学校は日帰りの遠足みたいな形で実施されるところなのかなと思うんですけれども、やむを得ない部分もあるのかもしれませんが、やっぱり中学校3年の最後の思い出みたいなところがやっぱり、十分つukれないのはどうなのかなというようなことも思ったりします。

例えば、町内の大山で、旅館でね、今、予約が取れなくて困っているようなところもあるかと思いますが、例えば1泊2日で、大山の旅館で泊まって、受験に備えた勉強

合宿という名目でもいいんじゃないかと思うんですけども、もうそういったような活動を通じて、まあ勉強する気持ちに切りかえるところを、育てながら何か思い出づくりになるようなことって検討ができないのかなというようなことをちょっとお答えいただきたいと思います。

それからコロナの全般的なことをですけれども、一次補正、二次補正の配分額で2億2,000万円がまだ財源として余裕があるということですか。そういう説明でしたか。締め切りがもう近いのに大丈夫なのかと。2億2,000万、とりあえず使っとけでもやっぱり困ると思うんですよね。できるだけ有効に使っていただきたいと思うし、そういった、コロナ後、町民の暮らしを立て直すために、この2億2,000万がどのように使われるのか、どう使っていくべきなのから、どのような形で今、執行部の中で、協議・検討されてるのか、そういったことを少し説明いただきたいなと思います。

それから、もう一つ。同じ、関連することで先ほど町長が加藤議員に対しての答弁でしたかね、今のコロナ対策の事業について、これで十分だと思っていないと、というようなことを言われました。で、結局、どういうところが不十分だと感じておられるのか町長自身がね。コロナ対策として、どういうところが、まだまだだなって御自分でお考えになっておられて、こういう面でコロナ対策予算を執行したいと思っておられるところがあれば、ちょっとお答えいただきたいなと思います。

それから給食費のことですけれども、今年度限りなのですかって聞いたら、最初町長は今年度限りだとおっしゃったので、ああそうかと思ったんですが、なんだか消費税の配分を活用して、今後も、無償化を検討して、みたいなことをおっしゃっていて、財源がどこからはともかく結局、無償化するのか、しないのが大事なところであって、無償化を続けるとなると、ほんとうに子育て世帯の負担軽減、大事なことだと思うんですけども、先行して、医療費がタダになって、保育料も無償化になる中で、どこにいても食べなければならないご飯を全額、公費で出さなければならないのか、そこまで大山町の貧困状況、今広がってるかっていうと、決してそう思わないんですよ。やっぱり、掛かった費用はを適正に支払っていただくということも、大事なことだと思うので、何でそこまで、その給食費の無償化にこだわられるのか。ちょっとよくわからないんですが。

コロナ対策で、どのような効果が得られるかと加藤議員の質問に対して、子供と触れ合う時間をつくってもらいたいと、その経済的な負担を軽くすることで、子供と触れ合う時間をつくってもらいたいと、そういう趣旨はいいことだと思うんですが、であるならば町内の子供に押しなべて、全ての子供が恩恵を受ける形でないといけないと思うんですよ。

池田議員が指摘もありましたけれども、町外の養護施設に通っている子が対象外になりますと。いろんな事情で学校に通わない不登校の子供が対象外になりますと、そうい



った形になるのは、町長の趣旨の説明からいくと、やはり不適切ではないかというふうに感じます。

それなのであれば、全ての子供の保護者に現金給付をするか、この間、商品券を配布したわけですから、あのときに、児童生徒のあるところについては、児童1人当たり1万円なり2万円なり増額しておけば、当初の目的はそれに達成できたんじゃないかなと思うんですが、そういったことも含めてですね、本当に、給食費の無償化、必要なのか、来年度以降も本当に、それを検討していかれるのか、改めて御回答をお願いいたします。

○教育長(鷺見 寛幸君) 議長、教育長。

○議長(杉谷 洋一君) 鷺見教育長。

○教育長(鷺見 寛幸君) 近藤議員からの御質問であります修学旅行についての考え方についてお答えいたします。

まず修学旅行については、夏休みに入る前に各小中学校の校長会で話し合いました。その結果、1学期の状況ですと、中学校の予定してる東京、沖縄については、まず無理だと。また、小学校の予定してる広島は無理だということを皆さん、みんなで確認をしまして、県内のバスでの旅行、県内または状況を見て、島根方面、岡山県北部あたりで、バスでの旅行、体験学習も含めた旅行にしようということにしました。

それで、1泊でも可能だということを、中学校にも伝えたんですが、中学校の校長先生方はやはり、中学校3年生であると、また、2学期ということでもあって、もし何か起こった場合、受験というものを考えると、非常に受験はもう子供たちの一生にかかわることですので、かなり慎重に考えられました。

その結果、1泊は止めようと言う校長先生方の中学校の意見でございました。先ほど勉強合宿というようなことの提案もありましたが、当然夏休み、勉強合宿で青年の家を利用してやっていたという学校もございましたが、ことしは、集団での宿泊は、非常にクラスター等のリスクが高いということで、見合わせてあります。ですので、中学校の修学旅行については、学校長判断ということで、教育委員会としては認識しておりまして、感染拡大など地域には行かない、また、バスでの旅行でかなり応用のきく旅行にしようということで話しました。

ただ、大山周辺ということもありまして、例えば、きのう中山中学校の校長先生と話したんですが中山中は鳥取方面に予定をしているということでした。ただ、鳥取方面でまた、前のような、感染拡大が起こった場合、行けないという状況であれば、例えば中山中学校から昔の大山道をたどりながら、大山まで歩いて行くとかですね、歩いて行って大山の学習をすとか、そういう方向もあるだろうというような話をしました。

ですので、今後の、感染状況において、いろいろ臨機応変に対応していくという、基本的には考え方でございます。以上です。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えします。

今の支援策全般が、まだまだ十分でないというような答えだったけど、どういうことかという話ですが、これは、ほかの議員の答弁でもお答えをしたとおりでありまして、新型コロナウイルスが、これで終息をしていけば、ある程度、支援策、これで大体全部できましたということで、お話ができるわけですがけれども、新型コロナウイルス、まだまだ終息も見通せない状況でありますので、この先状況も常に変化をしていくものであります。

経済的な打撃を受けている方も、この先ひどくなるかもしれないし、そうじゃないかもしれない。今、何も影響がないところにも影響が出てくるかもしれない。こういったところを考えると、まだまだ、十分ではないというふうなお答えをさせていただいたところがございますので、現状としましては、さまざまな支援策をしておりますが今後も、状況を鑑みながら、支援策を検討していきたいというふうに思っております。

また、支援策の検討におきましては、新型コロナウイルスの経済対策会議ということで、さまざまな部署横断で協議をしたり、それぞれ個別の担当課との協議をしたりということが積み重ねてきておりますし、声としましては、直接住民や事業者と触れ合う、担当者職員が拾い上げてくる声もでございます。当然、議会のほうから、第1弾、第2弾、このような新型コロナウイルス感染症対策の政策をしてはどうかというような御要望、御提言もいただいているところであります。

そういったところを総合的に判断しながら、今後も支援策を検討していきたいというふうに考えております。

それから学校給食費に関しましては、このたびの予算提案におきましては、今年度限りの支援策ということで御説明をさせていただいたとおりでございますし、教育委員会のほうでもそのようにお話をさせていただいて、御承認をいただいたところでございます。来年度以降に関しましては、今後、しっかり検討してまいりたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○議員(10番 近藤 大介君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 近藤議員。

○議員(10番 近藤 大介君) ちょっと何を言っておられるか全然わからない。このたびの予算では、今年度の分しか提案してないって当たり前の話じゃないですか。来年度以降もしますとか、しませんとか、そういった予算、通常組みせんよね、こういうの。

なんかすごく詭弁だなと思って聞きました。で、そういう今みたいな形で教育委員さんにも説明がしてあるということだと教育委員さん、どこまで理解しておられるのかなと。要はとにかく来年度以降も、全額補助、給食費の全額補助を検討していくということですよ。結論は。それならそれでそうというふうにちゃんと説明すべきだと私は思

いますよ。3 回目の質問ですけど、ちゃんと答弁を訂正していただきたいなと思います。

それから今後のコロナ対策の事業についてですが、コロナが終息すれば対策としては終わりだというふうにおっしゃったんですけど、本当にそういう答弁でいいんですか、町長。今回のコロナ、世界的なパンデミックによって、社会状況とか経済状況等大きく変わったんじゃないですかね。それにあわせて、大山町のその、あるいは鳥取県西部の経済のあり方、仕事のあり方も大きく変わってきていると、それにどう大山町の事業所、事業は対応していくのか、それは本当にこれから大きな課題であって、そういったことがどこまで内部で考えられているのか。そういったことが全く見えません。コロナが終息したから終わりではない。終息後もどうやっていくかということについて、（「休憩」と発言する者あり）ちゃんと答弁していただきたいなと思います。

○議長(杉谷 洋一君) 休憩の動議がりましたが、どうですか、皆さん。

（「2人以上、休憩の動議」「進行、進行」「休憩」と発言する者あり）

○議長(杉谷 洋一君) 休憩します。（午前 11 時 17 分休憩）

○議長(杉谷 洋一君) 再開します。（午前 11 時 25 分再開）

最後、一応答弁お願いします。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) はい。お答えします。

新型コロナウイルスの対策事業というのが、コロナが終息したら終わりでもいいのかという話がありましたけれども、コロナの対策の事業はコロナが終息したら終わりであろうと思います。新型コロナウイルスの影響によって、さまざまな社会状況の変化がっております。これは今までにない、大きな変化でありますので、それに対応した経済対策であったり、そのほか生活支援だったり、こういったところは、改めて、別枠で議論する必要があるかと思います。これは、大山町だけで議論するものでもありませんので、しっかり周辺の市町村、あるいは国県と連携して進めていけるように、今後も、協議をしていきたいというふうに思っています。

それから給食費の件で、来年度以降、検討するというのであれば、検討すると答弁をせんといけんだろうがというような御指摘をいただきましたが、私の記憶で先ほど来年度以降は検討していきたいというふうにお答えをしたところでありますので、近藤議員の御指摘のとおりのお答えをさせていただいたところでございます。（「今年度限りって言ったじゃん」と発言するものあり）

○議長(杉谷 洋一君) ということで、次に進めたいと思います。ほかありませんか。

なかったら次進めたいと思いますけど。

○財務課長(金田 茂之君) 議長、財務課長。

○議長(杉谷 洋一君) 金田財務課長。

○財務課長(金田 茂之君) 一つ前の近藤議員の質疑、回答する前に次の質問に行かれてしまいましたので、改めて答弁させていただきたいと思います。

コロナウイルスの交付金は予算未計上が2億2,000万あるという話で、今後どうするのかという話でございましたけれども、既に、予算化しております事業につきましても、基金を充ててる事業もたくさんございます。例えば、先ほど近藤議員からもありました、商品券の事業とか、財政調整基金充てておりますので、もう9月の中旬には国のほうに提出しないといけませんので、今確定しております事業に先に充てさしていただいて、実施計画のほうは、提出するという格好になろうかと思っております。

冒頭申し上げましたとおり、既にもう事業費ベースで5億9,000万くらいになってますので、もう交付金、充当以上に事業化しておりますので、今後は、繰越金なり、また、財政調整基金を充てて、事業化するという格好になろうかと思っております。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) ほかに質疑ありませんか。

○議員(7番 米本 隆記君) 議長、7番。

○議長(杉谷 洋一君) 7番 米本議員。

○議員(7番 米本 隆記君) 今回の予算、補正予算についてもコロナ関係が多いんですけど、実際にちょっとお聞きしたいんですけども、大山町の障害者福祉リモートの件とですね、この給食費の補助についてをちょっとお聞きしたいんですが、先ほど町長のほうがですね、子育て世代はすごいストレスが出てるんじゃないかと、そういったところでこういった補助が必要じゃないかというような言い方をされたんですけども、実はですね、家におられて実際に苦労されてるっていうのは、一般的に例えば、高齢者世帯、老老介護されてるような状況のところもあるやもしれませんし、障害者を抱えておられるところは、それなりにストレスを抱えてずっとおられるわけですし、そういったところは、今の段階で話がない、給食費っていうのは先ほど、他の議員も言われましたけど、食べるものはどこでも食べるんで、それに対してお金をばらまくって言ったら言い方が悪いんですけど補助するという言い方、ことになります。

そういったところで考えたときに、家におられてコロナで、経済的にストレスがたまっているような言い方をされますけど、そういった方々だけじゃなくて、平素からそういったストレスを抱える方もたくさんおられるわけなんですよ。そういった方々には、今、現在、執行部から話を聞くと、まるでそういったところに目が入ってない。というふうに私はちょっと考えております。

今度、31日にどういったものがあるか、出るかわかりませんが、まだちょっともう1回聞きたいんですけど、学校給食の補助というのは、先ほど他の議員を言いましたけど、どこで食べても同じもんだからだから、それにただ補助するっていうことはただ目先を子供たちに対して出すっていうことじゃなくて、学校という名前を使って出してるような感じに受けとめるれるところがあるんですが、そのあたりはどうなんでしょ

うか。

それから福祉関係でリモート環境を整えられるということで、各事業所に聞かれたと思いますけども、福祉関係で言えば、私はさっき最初に言いましたように、そういった例えば介護されている家庭なんかわかってるはずなんですけど、そういったところから何も声がなかったのか。例えば、障害者団体とかそういうところには話をされたのか。そういったところをちょっと、お聞きしたいというふうに思います。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えします。

給食費に関しましては、先ほど来、答弁させていただいておりますけれども、さまざまな支援策、今まで展開をしてきて広く、全町民に対して、支援策をしているものもあれば、対象者を区切って、支援をしているものをさまざまあります。

今回は、子育て、小中学生のいる子どもの家庭への支援ということで、させていただいておりますけれども、広く、いろんな状況にある方、いろんな状況にある家庭を見て、意見を聞いて、今後も支援策は展開していきたいというふうに思っています。

○福祉介護課長(池山 大司君) 議長。福祉介護課長。

○議長(杉谷 洋一君) 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長(池山 大司君) はい。リモート環境に関しまして、高齢者世帯とか障害者世帯のほうから、何かニーズがないかという御質問があったと思います。

こちらにつきましては福祉介護課のほうで直接把握してるというわけではないんですが、実際問題としましては、介護保険制度ですとか、障害福祉サービス制度、こういったものを随時、更新とか提供のほうをさせていただいております、コロナとは直接関係しませんが、そういった部分で御家庭の支援のほうはさせていただいてるのではないかと考えております。

ただ事業所側からするとですね、どうしてもサービス量がどうしても少しずつ増えてるというのは聞いておまして、そのあたりの事業者へのまた支援っていうのは、今後の検討課題であるかなというふうには考えております。以上です。

○議員(7番 米本 隆記君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 米本議員。

○議員(7番 米本 隆記君) はい。先ほど給食費のほう、先にお話しさしてもらいましたが、給食費っていうのは、さっきも言いますが、誰がどこで食べても掛かるものでして、それを子育て世代だからっていうのは、子育てに対して出したいという意があるのですしたら、普通これが平時の場合、子育て施策として何とかこれをしたっていうことなら、やはりちょっと年の方待ってくださいよ、子育てがやっぱ町の方針としてこうやってやりたいという町長の意向でできるかもしれない。

だけど今、平時でなくて異常事態ですよ、コロナで。そういったところに、名目を変えて学校という名前を使って使うというようなことをやられても、なかなか町民は納得しないというふうに思います。

そのへんのところも、もう1回、再考をお願いしたいなというふうに思います。これが、30、31日だったかな、次の全協のときに説明しますということでもありますので、それが載ってくるかどうかというのはちょっとわかりませんが、そういうところ御検討願いたいというふうに思うのと、それと、障害者のほうですけど、介護サービスとかそういった福祉サービスを使うのは、今、使わしていただいている方多いと思いますが、しかし、そのサービスを使っている、やはりそれは毎日使うわけがないので、週に2回とか3回とか、まあ重症者の方は、入院といいますか、そういった措置もされるかというふうに思いますけども、やはり、家庭で、そういったことを看ておられる方というものは、やっぱりストレスも多くなる、いろいろな面で負担も大きいということがあると思うんです。そういったところを、ではどうされるんかっていうことは今回全然ない。そういったところを検討材料になるかなというふうに思うんですが。その2点について再度お聞きしたいと思います。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 竹口町長。

○町長(竹口 大紀君) お答えします。

繰り返しの御質疑ですので、繰り返しの答弁になろうかと思っておりますけれども、このたびは、子育て支援策ということでコロナの支援策と絡めてさせていただいておりますが、それ以前にもですね、町民全員に対しての支援策であったり、事業者の業種を区切った支援策であったり、さまざまさせていただいているところであります。これで終わりということではなくて、いろんな状況にある方ございますので、引き続き状況を見ながら支援策が展開をしていきたいというふうに考えております。

○議長(杉谷 洋一君) 質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 質疑なしと認め、これで質疑終わります。

これから討論を終わります。討論はありませんか。

[「議長、反対討論」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 議案に対して反対討論ですね。はい、じゃ、近藤議員。

○議員(10番 近藤 大介君) 補正予算第8号について反対討論いたします。

今回の補正予算では幾つかのコロナ対策の予算が組んでありますが、学校給食費補助金ということで、全額補助すると、学校給食について全額補助をするという予算がございます。町長は、この全額補助する必要性について、子育て世代の負担を軽減することによって、経済的負担を軽減することによって、子供と触れ合う時間を確保をしてほし

いというようなことをおっしゃいました。

もしそういう目的でこの事業を実施するのであれば、町内の全ての児童生徒に対して、恩恵が及ぶような形で実施がされなければならないと思います。今回の給食費の補助ということでは、まず、要保護世帯、準用保護世帯が補助の恩恵から外れます。それから、擁護学校う生徒やフリースクールに通う生徒について、補助の恩恵から外れるということで、格差が生まれると。町長が説明した目的でこういう事業を実施するのであれば、現金給付、もしくはそれに準ずるような形で、施策を検討すべきだと思いますので、私はこの補正予算に反対をいたします。

○議長(杉谷 洋一君) 次に賛成者の発言を許します。ありません。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) じゃあ、もう1回聞きます。反対者の発言はありませんか。

○議員(4番 加藤 紀之君) 議長、4番。

○議長(杉谷 洋一君) 加藤議員。

○議員(4番 加藤 紀之君) 私もこの議案に反対をしたいと思います。

同じ部分ですね、学校給食費の補助金です。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充てて、本当に困っているんだか、困っていないんだかわからない世帯にまで、給食費の無償化をするのは、不適切だと思います。

仮に、給食費の無償化をこの財源を使ってされるのであれば、本当に困ってる世帯にさせていただきたいなと思いますし、違う形、例えば一般財源であったりだとか地方債を使って給食費の無償化をされるのであれば、それはそれでまた私は賛成はしますが、今回の財源と歳出の関係、非常に不適切だと思っております。以上の理由で反対をいたします。

○議長(杉谷 洋一君) 次に、賛成者の発言を許します。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) はい、もう一回聞きます。

次にまた反対者の発言を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 次に賛成者の発言を許します。

[「議長」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 賛成ですか。

○議員(3番 門脇 輝明君) はい。

○議長(杉谷 洋一君) 3番 門脇議員。

○議員(3番 門脇 輝明君) 私は、賛成の立場で話をさせていただきます。

確かに今回の給食費全額無償っていうことは、先ほど指摘があったように、いろいろ問題があると思っております。ただ教育委員会のほうにおいても、教育委員さん、皆さ

んがいいだろうということで、賛成をしていらっしゃる、この案でございます。足りないところは先ほど町長が言われたように、漏れたところはフォローしていくんだと（「そうだ」と発言するものあり）というお話でありました。そうであるならば、今、私たちが反対をして、足を引っ張るようなことは必要ないのではないかと思います。（「そうだ」と発言するものあり）

そういった意味で賛成をさせていただきたいと思います。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) 次に、反対者の発言を許します。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) 次に、賛成者の発言を許します。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長(杉谷 洋一君) これで討論を終わります。

これから、議案第 107 号を採決します。お諮りします。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[ 賛成者起立 ]

○議長(杉谷 洋一君) 起立多数です。

したがって、議案第 107 号は、原案のとおり可決されました。

---

#### 日程第 5 議案第 108 号

○議長(杉谷 洋一君) 日程第 5、議案第 108 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第 2 号）についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀町長。

○町長(竹口 大紀君) 議案第 108 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第 2 号）については、新型コロナウイルス感染症対策及びオンライン資格確認関連事業を実施するにあたり、既定の歳入歳出予算の総額に 559 万 6,000 円を追加し、歳入歳出予算総額を 3 億 6,798 万 6,000 円とするものであります。

主な事業として、新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金の給付、オンライン資格確認システムの導入委託、空気清浄除菌脱臭装置の購入を行うものです。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長(杉谷 洋一君) これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 議長、3 番。

○議長(杉谷 洋一君) 3 番、門脇議員。

○議員(3 番 門脇 輝明君) 3 点お伺いしたいと思います。

1 点目は、先ほどお話ありました、従事者慰労金についてですけれども、この施設別の対象者数は何人でしょうか。

そして、電算システム導入委託についてですけれども、このシステムはどのような業



務に使用するシステムなんでしょうか。

そして施設備品を購入するとなっておりますけれども、どんなものを購入されるのか、お伺いしたいと思います。

○議長(杉谷 洋一君) 答弁をお願いします。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 施設別の人数ですけれども、名和診療所が 7 人、大山診療所が 5 人、大山口診療所は 14 人でございます。

それと電算システムでございますが、来年、令和 3 年の 3 月からマイナンバーカードが健康保健証として、使用がスタートいたします。それに伴いましてそれに対応するシステムを導入するというものでございます。

それと最後の備品でございますけれども、先ほどの提案理由の中で述べさせていただきましたとおり、空気清浄除菌脱臭装置を 4 台購入しまして、それぞれの診療所の、待ち合いに設置するというものでございます。大山口診療所は待ち合いが二つありますので、2 台を設置するというものでございます。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) よろしいですか。はい、ほかに質疑ありませんか。

○議員(13 番 岡田 聡君) 議長、13 番。

○議長(杉谷 洋一君) 13 番 岡田議員。

○議員(13 番 岡田 聡君) 新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金ということで、130 万円予算計上されました。これ、どういうケースを想定されているのか。

まだ県内に少ない、大山町では、町民の方は、まだ感染された人はいないわけですが、町内の診療所関係を診察した場合に、感染関係が出た場合の想定なのか。あるいは、米子市の医療施設関係で、受診した場合に、その感染が分かったというような場合は関係ないのでしょうか。これ、多分、診療所の職員が対象だろうと思いますけれども、どのような対応をとるのか、その説明をお願いいたします。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 慰労金交付事業でございますけれども、このたび新たに、県のほうで制度をつくられました。これは医療従事者に対して、一律医療機関によって、何といたしますか交付単価は違ってくるわけですけれども、日ごろのコロナ対応で非常に大変な状況で、医療現場で従事していただいております、その方に対して、医療従事者に対して、医療金を給付するというものでございます。

それで、その対象ですけれども、医師のほかは看護師、事務員、その医療機関で働いているものということでございまして、新たに県のほうで制度がつけられたことによりまして、このたび、交付をすると。給付をすると、職員に対して給付をするというもの

でございます。以上です。

○議員(13番 岡田 聰君) 議長。

○議長(杉谷 洋一君) 岡田議員。

○議員(13番 岡田 聰君) 具体的に町内で発生した場合は、町内の施設で入院することはできないわけですが、その場合に、米子市等へお願いするケースが多いと思いますけれども、入院の場合は別としまして、東京都なんかの例見ますと、結構自宅療養というケースも出ますが、県内ではそういうケースは、ないのかどうか。

もしあるとしたら、どのような対応されるのか。想定されるのかどうか、その点、お願いします。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 慰労金につきましては、仮に医療機関がいわゆるコロナ感染した患者を診察した、診察してないにかかわらず、一律、慰労金がこのたび給付されるということとなったものでございます。

それとは別に、コロナの患者さんが来られた場合の対応ということでございますが、その恐れのある方につきましては、例えば、施設内に入る前に、例えば診療所でしたら発熱外来棟とかございます。その他の施設につきましても、事前に、事前と言いますか、例えば、外で問診をとって危険だということでしたら、相談センターのほうへ、紹介をすると、紹介すると言いますか、相談をしていただくような形になろうかと思っております。

以上です。

○議長(杉谷 洋一君) ほかにありませんか。

○議員(7番 米本 隆記君) 議長、7番。

○議長(杉谷 洋一君) 7番 米本議員。

○議員(7番 米本 隆記君) ちょっとお聞きします。

先ほどのコロナの感染症対策従事者の慰労金についてですけれども、これ、県のほうが、制度をつくったと言われましたけど、新聞などでは国のほうが、従事者というか、実際に従事される方、医師について20万円とか、医療機関については10万円とか、従事者10万円とか、それとは別にこれはもう県が制度をつくって支給するという事になってるんでしょうか。

それで、先ほど人数を聞きましたら、町内では、7名。名和7名、大山が5名、大山口が14名ということになると26名おられますけれども、これ先ほど金額的に違いますよってというようなこと言われたんですが、どういうふうにそれは違ってくるんですか。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) まず最初に、制度でございますけれども、国のほうが大

本としては、制度としては作られたと思いますが、改めて県のほうでそれを受けて、制度をつくらせまして、各医療機関に周知がされたということでございます。

それと単価が違うというふうに申しあげましたですけれども、実際に例えば大きな病院で、コロナ感染者の方を診られた、診る病院であったり、診療所、大山町内の診療所のように、診るかどうかもわからないけれども、通常、医療現場として、そういった対応に当たっている医療機関、そういった大病院とか、通常地域の医療機関によって、その交付の単価が違ってくるということでございまして、大山町の診療所で単価は同じです。1人5万円でございます。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) よろしいですか。はい。

○議員(9番 野口 昌作君) 議長、9番。

○議長(杉谷 洋一君) 9番、野口議員。

○議員(9番 野口 昌作君) この慰労金ですけども、結局、これはなら、各診療所で、誰にも給付されると、何になっても、とにかく給付があるんだという捉え方でいいですね。どうですか。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議長、健康対策課長。

○議長(杉谷 洋一君) 末次健康対策課長。

○健康対策課長(末次 四郎君) 議員仰いますように、診療所の職員は、給付を受けるということでございます。コロナ感染者の方が有無に関わらずでございます。以上です。

○議長(杉谷 洋一君) よろしいでしょうか。ほかにありませんか。

[ 「なし」と呼ぶ者あり ]

○議長(杉谷 洋一君) 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

[ 「なし」と呼ぶ者あり ]

○議長(杉谷 洋一君) 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第108号を採決します。お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[ 賛成者起立 ]

○議長(杉谷 洋一君) 起立多数です。

したがって、議案第108号は、原案のとおり可決されました。

---

## 日程第6 議案第109号

○議長(杉谷 洋一君) 日程第6、議案第109号 令和2年度大山町水道事業会計補正予算(第2号)についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀 町長。

○町長(竹口 大紀君) 議案第109号 令和2年度大山町水道事業会計補正予算(第2

号) について、提案理由のご説明をいたします。

収益的収入及び支出の補正について、収入は、補助金 2 万 4,000 円の増額で、扶養児童の変更に伴う一般会計の繰入金であります。

次に支出は、総係費の給料、手当等を、総額で 130 万 8,000 円増額するものでございます。

続いて資本的支出でございますが、配水施設整備費 456 万 5,000 円の増額は、中山第 2 配水池新設工事に伴う八重第 1 遺跡発掘調査事業の負担金であります。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長(杉谷 洋一君) これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(杉谷 洋一君) 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(杉谷 洋一君) 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第 109 号を採決します。お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔 賛成者起立 〕

○議長(杉谷 洋一君) 起立多数です。

したがって、議案第 109 号は、原案のとおり可決されました。

---

#### 閉会宣告

○議長(杉谷 洋一君) これで、本臨時会の会議に付議された事件は全部終了しました。会議を閉じます。

令和 2 年第 9 回大山町議会臨時会を閉会します。

---

○局長(持田 隆昌君) 互礼を行います。ご起立ください。一同礼。着席。

---

午前 11 時 58 分 閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する

議 長 杉谷 洋一

署名議員 西尾 寿博

署名議員 吉原 美智恵